

STOP! 精神医療センター富谷移転、  
2・23 みやぎユーザーズアクション

“声なき声と共に”

# Action News

アクションニュース

vol.017

2023.7.14

【毎週金曜日発行】

stop.iten223@gmail.com

実際に何が起こっているのか  
ぜひ関心を持って見守っていきましょう



県立精神医療センター外観

「みやぎ県政だより7・8月号」に物申す！...P2

Nothing about us without us!

私たち抜きに私たちのことを決めるな！



facebook



### 県立精神医療センターへの言及箇所を検証してみた

県立精神医療センターユーザーとして、県政だより7・8月号の記事について意見を述べたいと思います。

先ずP3の知事のコラム「村井が走る」で、「これは唐突な思い付きではなく、時間をかけ県立病院の在り方を有識者に検討していただき、高齢化が進み合併症(いろいろな病気の併発)への対応が必要だということから総合病院と一つに(あるいは隣接)することが望ましいという結論に基づいたものでした。」とありますが、いつどのタイミングで「時間をかけ県立病院の在り方を有識者に討論していただく」というのでしょうか。そして有識者とはどなたのことなのでしょうか。県立精神医療センターの富谷市移転計画に関しては、二度の精神保健福祉審議会が行われたのは今年に入ってからであり、審議会の結論としては「現状の富谷市移転の計画に反対する」ですので、事実と異なります。

この審議会が行われる以前に、ご自分の構想に都合の良い「有識者」と語らって結論を出した、とおっしゃっているようにも受けとれてしまいます。

そしてP4-7の特集、「仙台医療圏の病院再編 持続可能な医療の提供に向けて」ですが、「限られた医療資源で適切な医療を将来にわたり持続的かつ安定的に提供していくためには、地域の医療機能の連携を一層進めていく必要があります。」

この点には異論はないのですが、精神医療センターに関しては地域の医療機能の連携という点で、移転により損なわれる長年名取市で培った地域包括医療については言及していません。また「県立精神医療センターについては、身体合併症(精神疾患と身体疾患を併せ持った状態)へ対応するため、一般病院との連携体制を構築することなどの方向性が示されました。」とありますが、これまで連携体制が構築されていなかったわけではなく市立病院との連携で身体合併症に対応してきた実績があり、前提からいささかの外れなのではないかという疑問がぬぐえません。

そして令和3年には「関係者と協議を開始しました。」とありますが、精神医療センターの関係者との協議は今年に入ってからようやく始まったものです。

とても重要な点ですが、県南の精神医療ユーザー当事者との対話なり懇談なりは現在に至るまで正式にはなされていない状態です。これをすでに開始しているもの、とするのは事実と異なります。施設の老朽化の観点では、「県立精

神医療センターは築41年であり、患者の皆さんのため、施設の老朽化や個室不足等の施設の構造的な問題の解決として、建て替えが急務です。建て替えに際しては、一般病院との連携強化や、全県からの交通の利便性なども視野に入れて検討する必要があります。」としていますが、老朽化の問題はだいぶ以前からわかっていたはずなのに、精神医療センターの建て替えはこれまで後回しにされてきています。また全県からの交通の利便性という点で、富谷市移転には問題があります。県南からのアクセスが非常に不便でありほとんど通院不可能になるためです。

また、6pの図版内の新たな県立精神医療センターの「主な機能」のなかにはこれまで県が県南の患者からの反対意見が出る度に述べていた、県南の患者のために外来・デイケア機能を名取に残す、という記載がなく、その下の「よく寄せられる質問」の中に名取市への外来設置検討の記載があります。この県の言い分は、そもそもが実現不可能、かつ不十分なものであるという指摘がかねてよりありました。何度も指摘されている県南、特に名取市～仙台南部の、これまでの精神医療センターユーザーを取り残さないという重要な点にまだ県は答えを出していない状況です。

ぜひ実際の県政だよりと見比べて、精神医療センターの移転計画に関する県の主張が、計画ありきであり、県民に正しく事実を知らせないものだということを知っていただけたらと思います。